

岩室ネットワーク

■この広報紙にあなたが写って
いましたら、総務課企画係（☎82
-4111内線 215）へご連絡くださ
い。写真をさしあげます。

いい顔、ありがとう



「岩室村はすてきな所ですね」と話す佐竹巡査部長

だど実感しています。まだ

みなさんの身近にいるすてきな人を紹介しようとスタートした「このひと」。今月はこの春から新しく村民の仲間入りをした巻警察署岩室駐在所の佐竹益男さん（岩室・38歳）です。

佐竹さんは昭和四十五年警察官になり、この三月、県警本部の防犯課から奥さんの由美子さん（33歳）と長女の千恵子さん（8歳）そして次女の由香里さん（4歳）とともに転動してきた若い駐在さんです。

「巻警察署は二回目の赴任です。五十一年から三年間、防犯少年係をしていましたので、割合管内は把握しています。その後、佐渡の相川署、そして県警本部の防犯課特捜係を経て、この春から岩室駐在所にお世話になることになりました。いままでどちらかという内勤の仕事ばかりでしたので、駐在所勤務は初体験です。そのため、

なにかとまだ慣れない点が多くあるかもしれないですね」と気軽に話してくる佐竹さん。出身地はあやめと城で有名な新発田市。岩室村も環境がとってもいい、というのが第一印象とか。

「岩室村は海あり山あり平野あり、そしてなんといっても温泉があるのいいですね。こんなことを言っているんですけど、巻管内の駐在所の中では、いちばん環境がいいんじゃないでしょうか。おかげで子供たちも大変よろこんでいます」とニコリ。しかしその反面、忙しいことはこのうえなく、着任二か月足らずですが、観光案内から交通事故の処理、果ては温泉街の酔っ払いの処理まで日夜フル稼働。おまけに赴任早々、暴走族グループの歓迎？なんかも受けたりして、駐在所の持つ仕事の大変さの一面を痛感したといいます。

「いままでは、一つの面だけの仕事をしていたらよかったのですが、駐在は全般的な仕事が多く、幅が広い責任がありますね。でも内勤の仕事と違って、直接地区の人たちとふれあえるという点では、すばらしい職場だと実感しています。まだ



笑顔がとってもすてきな佐竹岩室駐在さん

かもしほほいすね」と抱負と期待を語る佐竹さん。

確かに駐在所の仕事は勤務先と住宅が一緒にあるため、休みもあつてないようなもの。そのうえ守備範囲が広く、一人で何人分もの担当をする大変な仕事だと思えます。また岩室駐在所管内には岩室温泉をはじめ、弥彦山スカイライ

これからよろしく。

このひと

No. 8

佐竹益男さん（岩室駐在）

着任して二か月ほどですが一日も早く岩室のみなさんに溶け込んで管内の治安を守っていきたく思います。また地区のみなさんも堅苦しく構えないで気軽に相談な

ンや間瀬海岸などの観光地が多く、ほかよりグンと仕事量が多いのではないかと容易に想像できますね。「いまのところは平穩に仕事をすることができて安心しています。これから徐々に村民のみなさんの要望なんかもお聞きしながら期待にそうよう努力したいと思っています。ところで、わたしは巡回などで出ているときがあるんですので、そんな場合の事件、事故は一一〇番通報をお願いします。昨年からは本部で集中管理してありますので、万が一のときはぜひ利用してください」と佐竹さん。「まだ着任ホヤホヤの駐在ですが、体とファイトだけに自信があります。趣味といえるものはほとんどありませんが卓球を少しやります。酒ですか？まあまあ付き合える程度には……といったところでしょ



野菜づくりを通して食の文化を見つめよう——と先月十日、間瀬小学校の児童たちがサツマイモの苗植えをしました。学校脇の実習畑を耕して、約二百本の苗を植えました。先生の指導で各学年ごとに割り当てられた場所に、一本ずついねいに植えられ、「これからは休み時間を利用して、この畑の草取りをするんだ」とみんなはりきっていました。昨年は約三百キロのサツマイモが採れ、収穫祭を兼ねてみんなで試食会しました。ことしもたくさん採れるといいですね。

おじいちゃんたち、一緒に作ろうよ

単位老人クラブと中央保育園児が枝豆作り



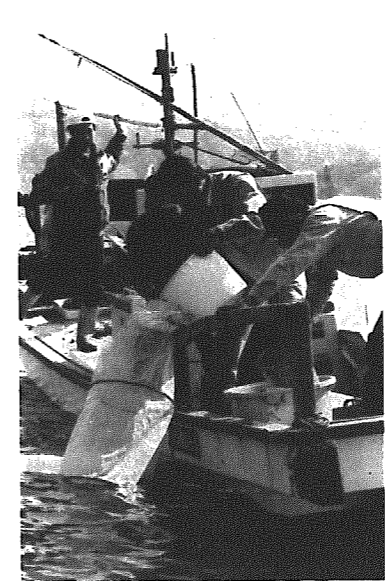
子供たちとのふれあいを通じて、世代間の楽しい交流を図ろう——と橋本部落など六つの単位老人クラブと中央保育園児が共同で計画した「ふれあい枝豆栽培」。先月十九日、このふれあい農園（約四畝）の畑で枝豆の種まきが行われました。種まきは老人クラブの会員が担当。種まき後、会員と園児たちが一緒に害虫や鳥からこの大切なふれあい農園を守るため、ご覧のようなカシを畑に立てました。収穫は八月二十日を予定し、収穫時にはみんなで一緒に収穫作業をすることになっています。

「音楽を通して文化の向上を」と先月十日、県内を巡回演奏していた文化庁の移動音楽教室（群馬交響楽団）が村民体育館で開かれました。会場には村内の小・中学校の児童・生徒も招かれ、「ウイリアム・テル」序曲や「運命」などオーケストラによる生演奏をたんのうしました。またみんなが歌おうという、ふれあいコーナールームもあってオーケストラをバックにみんなで歌い楽しみました。



車えびの稚えびたち30万匹が旅立ち

—沿岸漁業資源確保のため間瀬協が放流—



先月十七日、ことしの春に生まれたばかりの車えびの子えびたち三十万匹が間瀬漁協の人たちの手で間瀬海岸沖五百メートルのところに放流されました。これは沿岸漁業資源の確保をめざして、毎年行われているもの。一年後には約十センチ前後に育ち、このうち再び採れるのは百匹くらいとなかなか厳しい数字ですが、育てる漁業で人気の高い車えびが豊漁になるといいですね。

4月号でもご紹介した西船越のコミュニティ事業。財団法人・自治総合センターの自治宝くじの助成（総額150万円）を受け、地区内に案内板やコミュニティ掲示板、プランターなどが整備されました。とくに西船越手づくりむら公園（神社内）には水銀灯や時計、水洗トイレなどが整備され、先月18日には和納第二保育園児たちも散歩に訪ずれ好評でした。



コミュニティ助成事業で公園も充実